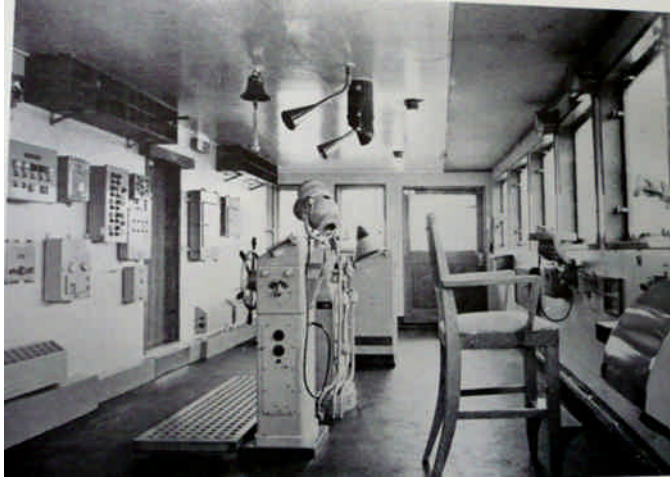


## 昭和37年の WHEELHOUSE, CONTROL ROOM

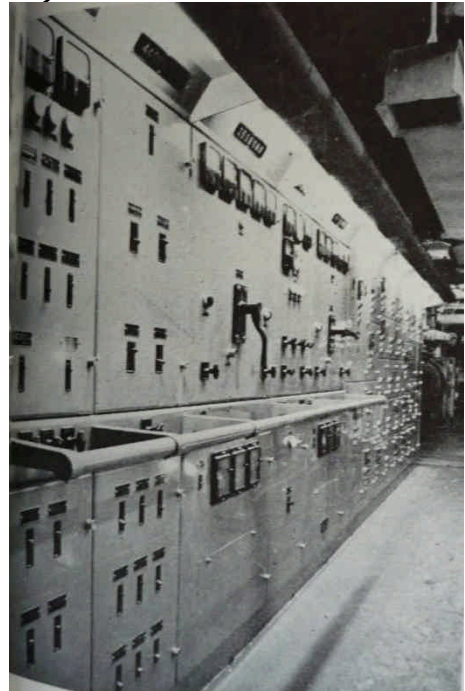
1) W37-01 「利洋丸」 WHEELHOUSE-1



2) W37-02 「利洋丸」 WHEELHOUSE-2



3) W37-03 「利洋丸」 機関室 配電盤



- ・ 1) 2) 3) は「船の科学」 1962-4 VOL.15 NO.4 より
- ・ 高速ディーゼルタンカー「利洋丸」 DW : 48,204 Kt
- ・ 船主 : 大洋商船(株)
- ・ 建造 : 佐世保重工(株) 昭和37年2月18日 竣工
- ・ WHEELHOUSE オートパイロットは東京計器  
レーダは安立電波との注記あり。
- ・ WHEELHOUSE 天上の Voice Tube は 一つは Compass Deck との連絡用、もう一つは Steering Gear Room との連絡用。

- ・ 下図の4) 5) は「船の科学」 1962-8 VOL.15 NO.8 より
- ・ 第17次定期貨物船「たこま丸」 DW : 12,182 t
- ・ 船主 : 大阪商船(株)
- ・ 建造 : 新三菱重工業(株) 神戸造船所  
昭和37年6月20日 竣工
- ・ 円形操舵室、機関制御室の採用など目新しい。Bridge Console も当時としては新しい。

4) W37-04 「たこま丸」 円形操舵室



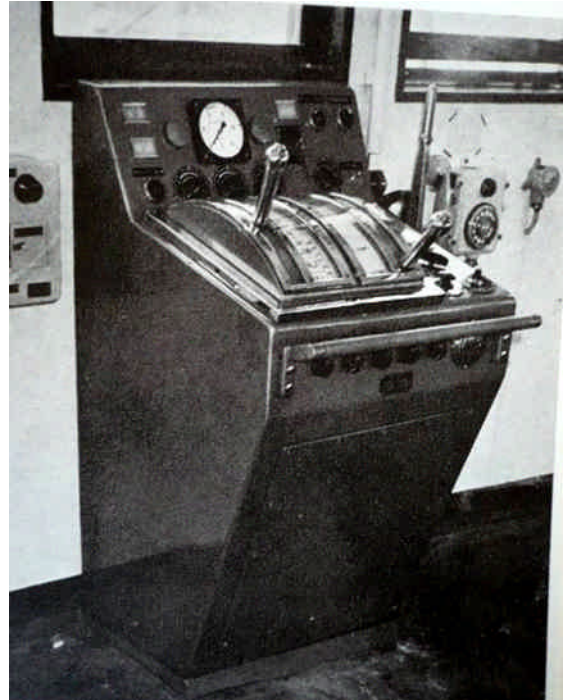
5) W37-05 「たこま丸」 ENG.CONTROL RM



6) W37-06 「佐渡春丸」独立監視室

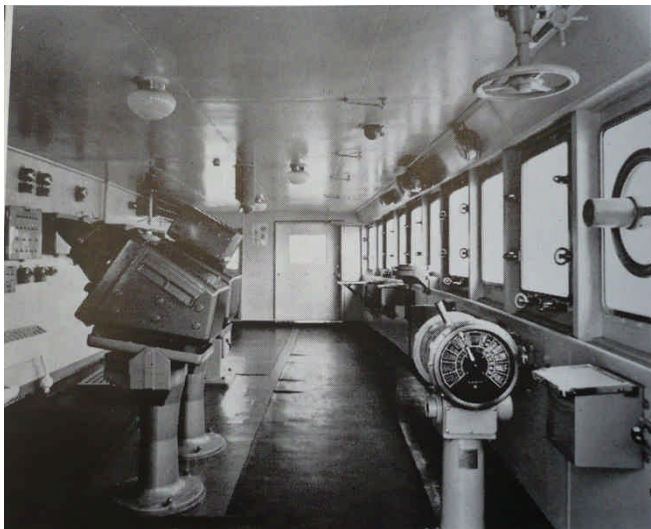


7) W37-07 「佐渡春丸」主機リモコン

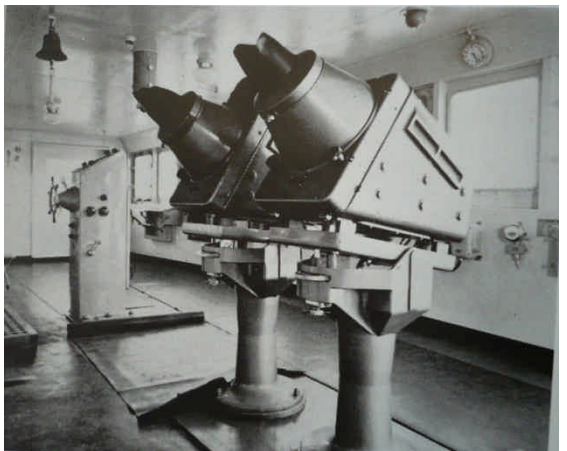


- ・ 6) 7) は「船の科学」1962-9 VOL.15 NO.10 より
- ・ 貨物船 「佐渡春丸」 DW : 12,245 Kt
- ・ 船主 : 新日本汽船(株)
- ・ 建造 : 日立造船(株) 因島工場  
昭和37年8月16日 竣工
- ・ 独立監視室、主機リモコンが始め、集中監視、遠隔制御の時代になりつつあった。

8) W37-08 「日章丸」WHEEL HOUSE



9) W37-09 「日章丸」2台のレーダ指示機



- ・ 8) ~ 13) は「船の科学」1962-10 VOL.15 NO.10 より
- ・ 大型タンカー「日章丸」 DW : 132,334 T ・ 船主 : 出光タンカー(株)
- ・ 建造 : 佐世保重工業(株) 昭和37年10月7日 竣工

- ・ 8) は WHEEL HOUSE、9) は 2台のレーダ指示機。レーダを2台装備するのは、当時としては珍しい。
- ・ 下図 10) は操舵スタンド、11) はレーダポスト。レーダアンテナはポストの一番上と中段に装備されている。Compass Deck 上には無線方位測定機の Loop Antenna が見える。また Compass Deck 上の Trunk は無線の送信用アンテナ引き込み用の金物である。ここまでいろいろ写っている写真は珍しい。
- ・ 下図 12) は機関室の主機の操縦場所の様子を示すもの。13) 14) は機関室の計器盤を示すものだが、本船ではまだ ENG.CONTROL ROOM は設けられていない。一つの船で、これだけいろいろな写真が残っているのは珍しい。



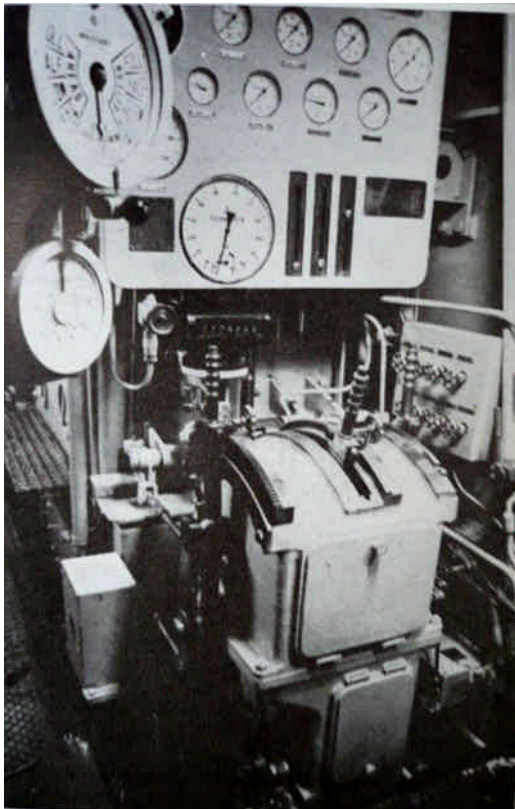
10) W37 - 10 「日章丸」操舵スタンド



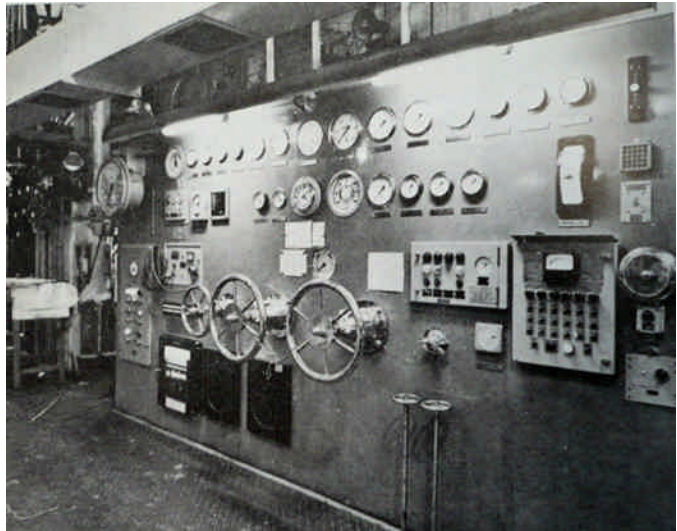
11) W37 - 11 「日章丸」レーダポスト



12) W37 - 12 「日章丸」  
機関室内 操縦場所



13) W37 - 13 - 1 「日章丸」機関室 計器盤 - 1

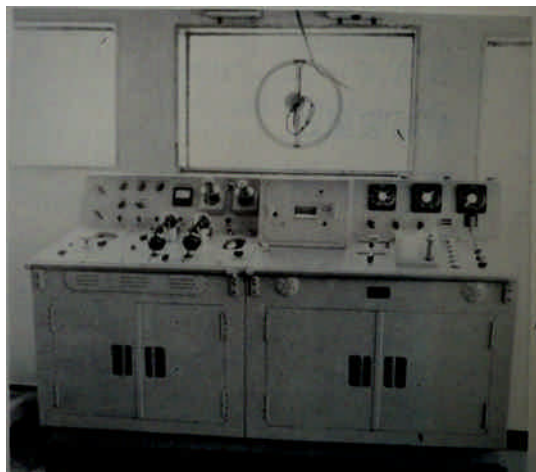


14) W37 - 13 - 2 「日章丸」機関室 計器盤 - 2





15) W37-14 「山利丸」  
WHEEL HOUSE 主機リモコン及びコンソール



16) W37-15 「山利丸」  
機関室内 監視室



- ・ 15) 16) は「船の科学」1962-11 VOL.15 NO.11 より
- ・ 第17次計画造船 「山利丸」 DW : 11,750 Kt
- ・ 船主 : 山下汽船(株) ・ 建造 : 日立造船(株) 桜島工場 昭和37年10月20日 竣工

17) W37-16 「さくら丸」 WHEELHOUSE-1



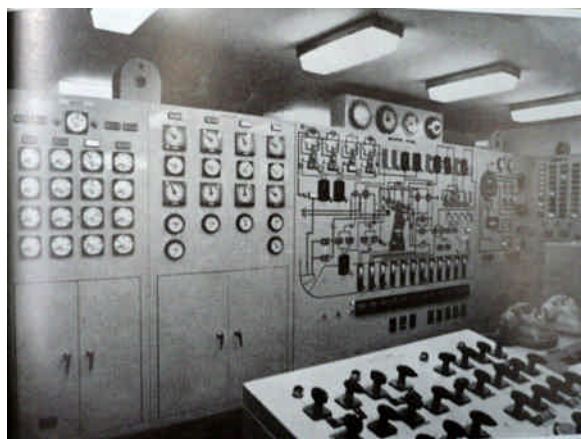
18) W37-17 「さくら丸」 WHEELHOUSE-2



19) W37-18 「さくら丸」 機関制御室 - 1



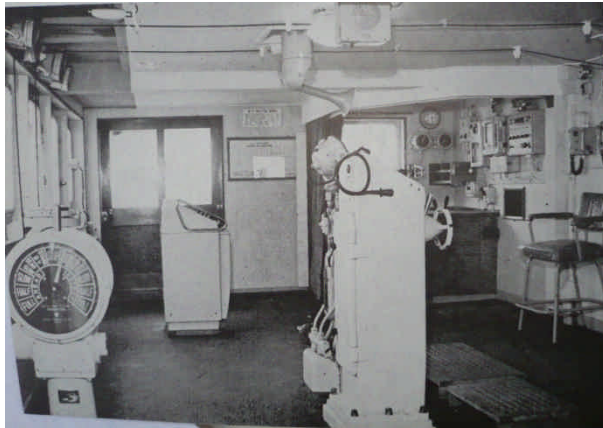
20) W37-19 「さくら丸」 機関制御室 - 2



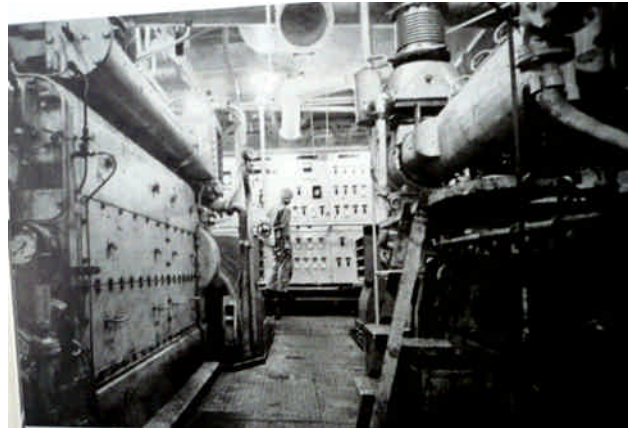
- ・ 17) ~ 20) は「船の科学」1962-12 VOL.15 NO.12 より
- ・ 巡航見本市専用船「さくら丸」 総トン数 : 12,628 T ・ 船主 : 見本市協会
- ・ 建造 : 新三菱重工業(株) 神戸造船所 昭和37年10月15日引渡し

- ・ 17) 18) は WHEEL HOUSE。Wheel House と Chart Room が一体となっている。当時としては斬新なデザインである。Chart Space はカーテンで仕切られている。Chart Room がなくなったため、壁が少なくなったので、Bridge Console が採用されるようになった。前の窓の上部には航海計器類が装備されているが、これもパネル化されている。
- ・ 19) 20) は機関制御室である。パネルにはメータや MIMIC が多用されていて豪華である。天井灯は蛍光灯になっている。

21) W37 - 20 「山梨丸」 WHEEL HOUSE

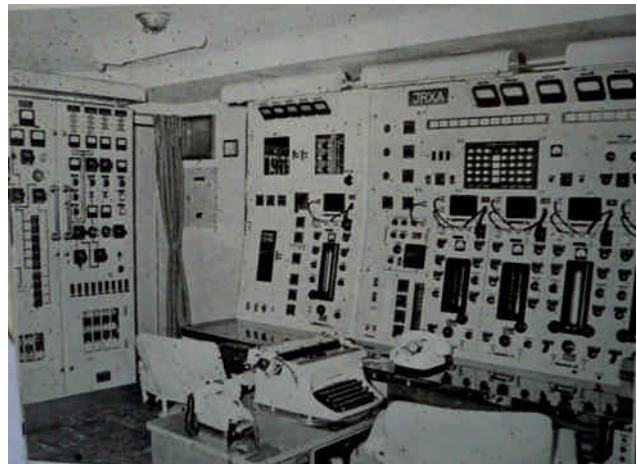


22) W37 - 21 「山梨丸」主発電機と配電盤



23) W37 - 22 「山梨丸」無線室

- ・ 21) ~ 23) は「船の科学」1963-1 VOL.16 NO.1 より
- ・ 高速貨物船「山梨丸」 DW : 11,700 Kt
- ・ 船主 : 日本郵船 (株)
- ・ 建造 : 三菱日本重工 (株) 横浜造船所  
昭和 37年 10月 竣工
- ・ 郵船は無線システムに力を入れていたが、23) の写真にはその様子 (高性能化) が窺える。



24) W37 - 23 「おりおん丸」 WHEEL HOUSE



25) W37 - 22 「おりおん丸」機関制御室





- ・ 24) 25) は「船の科学」 1963-3 VOL.16 NO.3 より
- ・ タービン・タンカー「おりおん丸」自動化第1船 DW : 49,209 T ・船主 : 大阪商船(株)
- ・ 建造 : 新三菱重工業(株)神戸造船所 昭和37年12月25日 引渡し
- ・ 本船も Wheel House と Chart Room が一体化している。出来るだけ全周が見渡せるよう Chart Room が除かれ、窓が多く設けられている。Chart Space はカーテンで仕切られている。
- ・ 本船は自動化第1船として紹介されている。25) に機関制御室の状況が見られる。中央が Log Table で、左より発電機計器盤、推進装置運転表示盤、主機操縦監視盤、ボイラ操作監視盤 との説明がある。

26) W37-25 「進徳丸」WHEEL HOUSE



27) W37-26 「進徳丸」CHART ROOM



28) W37-27 「進徳丸」無線室



29) W37-28 「進徳丸」総括制御室



- ・ 26) ~ 29) は「船の科学」 1963-3 VOL.16 NO.3 より
- ・ 練習船「進徳丸」 総トン数 : 3,452 T
- ・ 船主 : 運輸省航海訓練所 ・ 建造 : 日本鋼管(株) 昭和37年12月20日 引渡し

・ Chart Room の写真は余り残っていないので、27) の写真は珍しい。テーブルの上の機器は無線方位測定機である。

## 【メモ】

- 1) 昭和37年は 写真が多く残っているので見ていて面白いし、また楽しい。
- 2) この年は、目新しいものも多く見られる。円形操舵室の採用(たこま丸、おりおん丸) それに伴い Chart Room がなくなり、Bridge Console が採用され、Chart Space はカーテンで仕切られる方式に変わった。Chart Room の壁がなくなったので、視界が広がった。主機リモコンの採用が進み、機関制御室が設けられ、機関部の自動化が試行されだした(おりおん丸 自動化第1船)。レーダの2台装備が始まった(日章丸)。天井灯に蛍光灯が採用されている、など。